

アブラハムの決断（創世記13:18）

すべての神の民の信仰の父であるアブラハムは、救われた聖徒たちがこの世で生きる生活を最初に示すモデルであると述べました。そのようなアブラハムの生活を代表する2つのものが祭壇と幕屋です。

祭壇はいけにえを獻げる場所です。そこで私を獻げ（自分を捨て）、死ぬ場所でもあります（十字架）。自分を獻げる獻身を通して、世のものをもっと手に入れて、成功して高い地位に上がろうとする決断ではなく、自分の意志や努力を捨てて神様の熱心さに捕らえられ、神様のみこころに従う生活を生きる決断をする場所です。それがまことの征服者の人生です。

幕屋は絶えず旅をしなければならない巡礼者、旅人の象徴です。神様が導き、示される所にいつでも移動し、留まるように言われる場所でいつでも留まることができる準備が整っているべきだという従順の決断があるべきです。アブラハムは主のみことばに従って、ハランを出て約束の地カナンに到達しました（創世記12:4-5）。しかし、そこに留まり続けたわけではなく、シェケムからベテルへ、ベテルからエジプトへ、再びエジプトからヘブロンへと移り住みながら幕屋を張りました。その意味で、カナンも通過地点です。約束の地カナンは、私たちの心の中で実現される場所です。神様の統治と主権の下で従順に生きる人々の中に臨むのです。

救われた神の子どもは、すでに神の国を相続した者です。この世と区別された神様の教会（エクレシア）と呼ばれ、再びこの世に送り返された者たちです。肉体の幕屋を着てこの地を生きる間は、神様絶対依存の位置で、どんな環境や状況でも従順を学び、練習して生きるのです。その過程を通して、他の人々に神様のみことばとみこころに従順に生きることが、どのようなことであるかを見せてあげるのです。その中に、まことの幸せ、喜び、平安があることを見せてあげるのです。